

# NewsLetter

Kagoshima University Library

# 南風



## 鹿児島大学附属図書館 貴重書公開事業

この事業は鹿児島大学附属図書館が所蔵する「玉里島津家」の蔵書であるいわゆる「玉里文庫」を、広く市民や県民に公開し、薩摩藩が日本の近代化において果たした役割について、歴史的・文化的視点を始め多元的な切り口から理解してもらうために行っているものです。

玉里文庫は平成11年度に大学創立50周年を記念して初めて一般公開され、好評を博しました。これを受け、翌年から事業化され、今日に至っております。



編集・発行：鹿児島大学附属図書館  
〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21-35  
電話 099(285)7440 FAX 099(259)3442  
Mail : joho@lib.kagoshima-u.ac.jp  
http://reo.lib.kagoshima-u.ac.jp/~nanpu/

合同企画展開催

## 薩摩藩『玉里邸』とその文化

鹿児島大学附属図書館と県歴史資料センター黎明館  
とのコラボレーション

期間：2月16日（火）～5月9日（日）

場所：県歴史資料センター黎明館

附属図書館は、「鹿児島大学附属図書館貴重書公開事業」として、本館が有する貴重書「玉里文庫」（玉里島津家の蔵書）の公開と講演を、これまで10年間にわたり、県内各地と附属図書館内で行ってきました。毎回、新しい切り口で、玉里文庫の魅力と郷土の歴史・文化的価値を提示してきましたが、今回は新たな試みとして、鹿児島県歴史資料センター黎明館との合同企画展、「薩摩藩『玉里邸』とその文化」を開催することといたしました。

郷土の歴史・文化を知ることのできる資料は、様々な理由から本学と黎明館を含むいくつかの機関に分散して保管されています。今回の合同企画展では、主に鹿児島大学と黎明館が有する優れた資料を組み合わせることで、単独では得ることのできない新たな視点から「玉里邸」ゆかりの人々及び歴史・文化を紹介する企画となっています。本企画の展示物としては、附属図書館からは貴重書「玉里文庫」が、黎明館からは玉里島津家に関連する多くの文物が展示されています。

この度の展示は、島津斉興の別邸「玉里邸」の造営とそこでの文化的営みなどを知ることのできるまたとない機会となっています。この企画と準備に当たった丹羽謙治鹿児島大学法文学部教授と新福大健黎明館学芸専門員の日頃からの研究を踏まえ、幕末から明治維新に至る薩摩藩と鹿児島の歴史・文化研究に新たな足跡を残すものになったことも、特筆すべき点であると思います。さらに、両氏を含む鹿児島大学教員及び黎明館学芸専門員による本図録における資料解説も、専門の見地から丁寧になされ読み応えのあるものとなっています。

玉里島津家にまつわる資料は膨大であり、今回の合同企画展でその全てを展示することはできませんでしたが、また、今回とは違った視点で新たな合同企画展ができる日が来ることを願っています。

最後に、黎明館関係者には、上記のとおり、本合同企画展の企画から開催準備及び資料展示、研究面での連携を行っていただきました。また、島津忠廣氏をはじめ、鹿児島市教育委員会文化課、鹿児島市立鹿児島女子高等学校、武雄市立歴史資料館、東京都江戸東京博物館、尚古集成館からは資料の貸与にご協力を頂きました。ここに記して感謝申し上げます。



玉里邸庭園

平成22年3月10日

鹿児島大学附属図書館  
館長 井上佳朗

## 合同企画展のみどころ

貴重書管理委員会委員  
丹羽健治（法文学部教授）

鹿兒島大学附属図書館と鹿兒島県歴史資料センター黎明館との初めての合同企画展は、「玉里邸」の歴史、および邸に関わった人々とそこで育まれた文化に焦点を当てようとするものです。鹿兒島大学には、玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」を所蔵、一方黎明館には「玉里島津家資料」が寄託されています。これらを合わせて展示することで、島津本家の磯邸（仙巖園）に比べ、あまり一般に知られていない「玉里邸」の歴史とそこで育まれた文化を掘り下げてみようと思った次第です。

今回特に力を入れたのは、玉里邸がなぜ造営されたのか、どのような人々が住み（また管理運営し）、どのように利用されたのかなどといった点です。玉里邸については、資料的な制約もあり、『玉里邸記』という編纂物に依存して説明がなされてきました。今回の展示では、『邸記』の記述を絶対視せず、「祐筆日記」や「島津田鶴子日記」等の一次資料を参照して玉里邸や玉里島津家の人々の実像を追うことを心がけました。



『島津田鶴子日記』（個人蔵）

合同企画展では、約100点の展示資料を全部で六つの部門に分け展示しています。

- I 薩摩藩における別邸の歴史
- II 玉里邸の成立
- III 玉里邸の歴史
- IV 玉里邸の構造
- V 玉里邸ゆかりの人々とその遺品
- VI 玉里邸の文化

Iでは、玉里邸が造営された19世紀半ばにおける鹿兒島の別邸の分布とその利用状況を示します。鹿兒島城周辺には磯邸以外に多くの別邸が置かれていたことに驚かされます。IIでは、島津斉興による玉里別邸の造営に関する資料を紹介します。IIIでは、西南戦争、桜島大噴火、太平洋戦争など歴史的事件と「玉里邸」との関わりをたどります。明治33年（1900）に2代忠済が一家を挙げて東京に移り

住んでからは、「玉里邸」は玉里島津家の別邸（鹿兒島出張所）となります。大正3年（1914）の桜島大噴火の際には避難民の救護所として開放されたことなどが古写真を通じて分かりました。IVでは、図面や写真を用いて、玉里邸の構造と庭園の特色を明らかにします。Vでは、玉里島津家の三代にわたる当主やその子供たち、顧問・相談役として玉里島津家を支えた旧薩摩藩士にゆかりのある品々を展示します。幕末から明治初期にかけて邸に住んだ勝姫が於遊羅（久光の実母）の死を悼んで作成した文章（「手向草」）や2代当主忠済の礼服、忠済の夫人田鶴子の日記など、本企画展で初公開する資料も多くあります。最後にVIでは、能楽、茶、活花、資料収集と編纂事業など「玉里邸」で営まれた文化活動に焦点を当てました。

是非この機会に「玉里文庫」「玉里島津家資料」の故郷である「玉里邸」の実像に触れていただきたいと思います。



木脇啓四郎筆『立花図』  
（鹿兒島大学附属図書館 木脇家文書）

### ●期間

平成22年2月16日（火）～5月9日（日）  
＊休館日：毎週月曜日（祝日の時は翌日）、2月25日（木）、3月25日（木）、5月6日（木）

### ●会場

黎明館3階企画展示室

### ●解説講座

3月6日（土）13：30～15：00

「玉里島津家の人々と玉里島津家資料」  
新福大健（黎明館学芸専門員）

4月17日（土）13：30～15：00

「玉里島津家の近代－『島津田鶴子日記』より－」  
丹羽謙治（鹿兒島大学法文学部教授）

### ●観覧料

常設展示と共通

一般 300円（230円）

高校・大学生 190円（120円）

小・中学生 120円（60円）

＊（ ）は20名以上の団体

＊図録 300円

【問合せ先】学術情報部情報企画管理課学術コンテンツ係  
099-285-7445